



神戸大学外科専門研修プログラム



神戸大学外科研修プログラムの委員会

目次

1. 目的と使命	3
2. 専門研修の目標	4
3. 神戸大学外科専門研修プログラムの特色	4
4. 神戸大学外科専門研修プログラム施設群	6
5. 神戸大学外科専門研修プログラム管理委員会	8
6. 外科専門研修計画	10
7. 専門研修の評価と修了	15
8. 専攻医の就業環境	16
9. 専門研修プログラムの評価と改善	16
10. 専攻医の採用について	17



1. 目的と使命

神戸大学外科専門研修プログラムは外科領域診療に関わる最新の知識・技術を習得し実践できる能力を養いつつ、外科領域の学問的発展に貢献することのできる外科専門医を育成することを目的とする。

外科専門医の育成を通じ、地域医療の拡充と外科領域分野の発展に寄与し、国民の健康福祉を増進させることが本プログラムの使命である。



これからの外科医に求められるもの、豊かな人間性と幅広い知識、高度な治療技術が必要です。医師となって最初の数年間はその後の進路を形作る貴重な時間です。自らの希望が適えられるように、効率よく研修を積むことが望ましいでしょう。

2018年4月より新外科専門医制度が開始となり、神戸大学外科学講座では食道胃腸・肝胆膵・心臓血管・呼吸器・小児・乳腺内分泌の6つの分野が協力し神戸大学を基幹施設とする新外科専門医プログラムをスタートさせました。本プログラムでは確かな手術技術はも

ちろんの事、公正な倫理観を持
解決する外科医を育成します。

日々の診療を大切にし、大学な

ち、チームワークを活かして問題を
一人一人の患者さんから教わる

らではの基礎から臨床まで、臓器・分野を越えた幅広い領域の知識や、高い専門的技術を学ぶ事が出来ます。また3年間の専門研修プログラム修了後も様々な診療特色を持つ関連病院への出向や大学院博士課程へ進学、国内外への留学など、幅広い選択肢の中から自身の選択した専門分野で外科医師としての研鑽を磨き続けることが可能です。より高い次元を見据えて、その後の step up に繋がります。

専門プログラム統括責任者

掛地 吉弘

(食道胃腸外科 教授)

プログラムに参加する一人一人の個性を活かし、仲間の助けを得て能力が最大限に発揮できる環境を整え、患者さんに最良の医療が提供できるように、我々は努力を続けます。良い伝統を次世代に受け継

ぎ、指導者を育てて各所に貢献できる人材を輩出していきます。外科に興味を持ち、可能性を拡げたい方はいつでも門を叩いてください。

2. 専門研修の目標

本外科研修プログラムにより、以下の4つの資質を備えた外科専門医になることを目指しましょう。

1. 外科専門知識
2. 外科専門技能：診察・検査・診断・処置・手術
3. 継続的な科学的探求心
4. 医師としての倫理観とプロフェッショナリズム

3. 神戸大学外科専門研修プログラムの特色

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の6分野が連携し、プログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修を計画することができます。

●サブスペシャリティ専門医への連動

整備基準に記される各領域の必須経験症例数は、研修期間中に十分な余裕を持って取得できます。外科専門医研修から切れ目なく各サブスペシャリティ専門医研修へと連動させることで、効率的に経験症例を蓄積することが可能です。またサブスペシャリティが未決定の専攻医についても、各領域一線の診療環境で研修を行うことで、研修を通じて自身の目標を明確化していくことができます。

●学術活動

学会発表や論文作成は、整備基準に記される必須業績を単純に蓄積するにとどまらず、サブスペシャリティ専門医取得へ効率的に連動できるように、研修管理委員会で管理します。各サブスペシャリティ領域の指導医が個々の専攻医の将来へ直結する業績を無駄無く蓄積できるように指導を行います。

●研修施設群

施設群には大学病院、センター病院、専門病院、都市部病院、地方病院など様々な規模、地域の病院を有しており、外科専門医取得のために効率的な研修が行えるとともに、各専攻医の目標や興味に応じた研修プランの構築が可能となっています。

●専門研修指導医

本プログラムの専門研修指導医は、随時指導者講習への参加等、指導スキルの向上を図っています。外科学会、各領域サブスペシャリティ学会の専門医、指導医、評議員などを多数名有しており、専攻医ごとに最適なロールモデルに身近に接し、一線の指導を受けることができます。

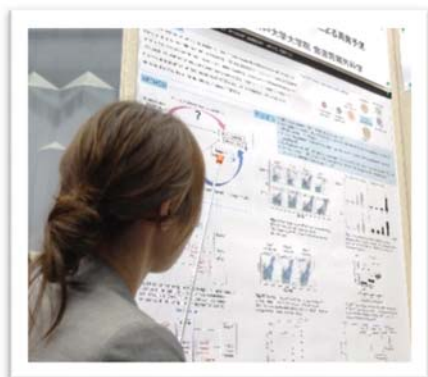
●研究、学位取得

研究、学位取得、あるいは将来の留学を希望する専攻医は、研修中に大学病院の各分野の持つ臨床研究テーマに取り組む事や、研究期間を設けて各分野研究室で研究を行う事などが可能です。大学院進学や研究期間を設ける場合においても外科専門医取得の遅滞が生じないように、経験数や業績の蓄積を行えるように研修プランを構築しています。

●研修環境

基幹施設である神戸大学附属病院には、外科スキル自主研修用のドライラボが設置されており、自由に利用可能です。また学内 LAN より、主要邦文、英文雑誌はオンラインで自由に入手可能です。外科関連成書、ビデオライブラリーは各分野医局で保有しており、専攻医は自由に閲覧可能です。

学会発表



ドライラボ



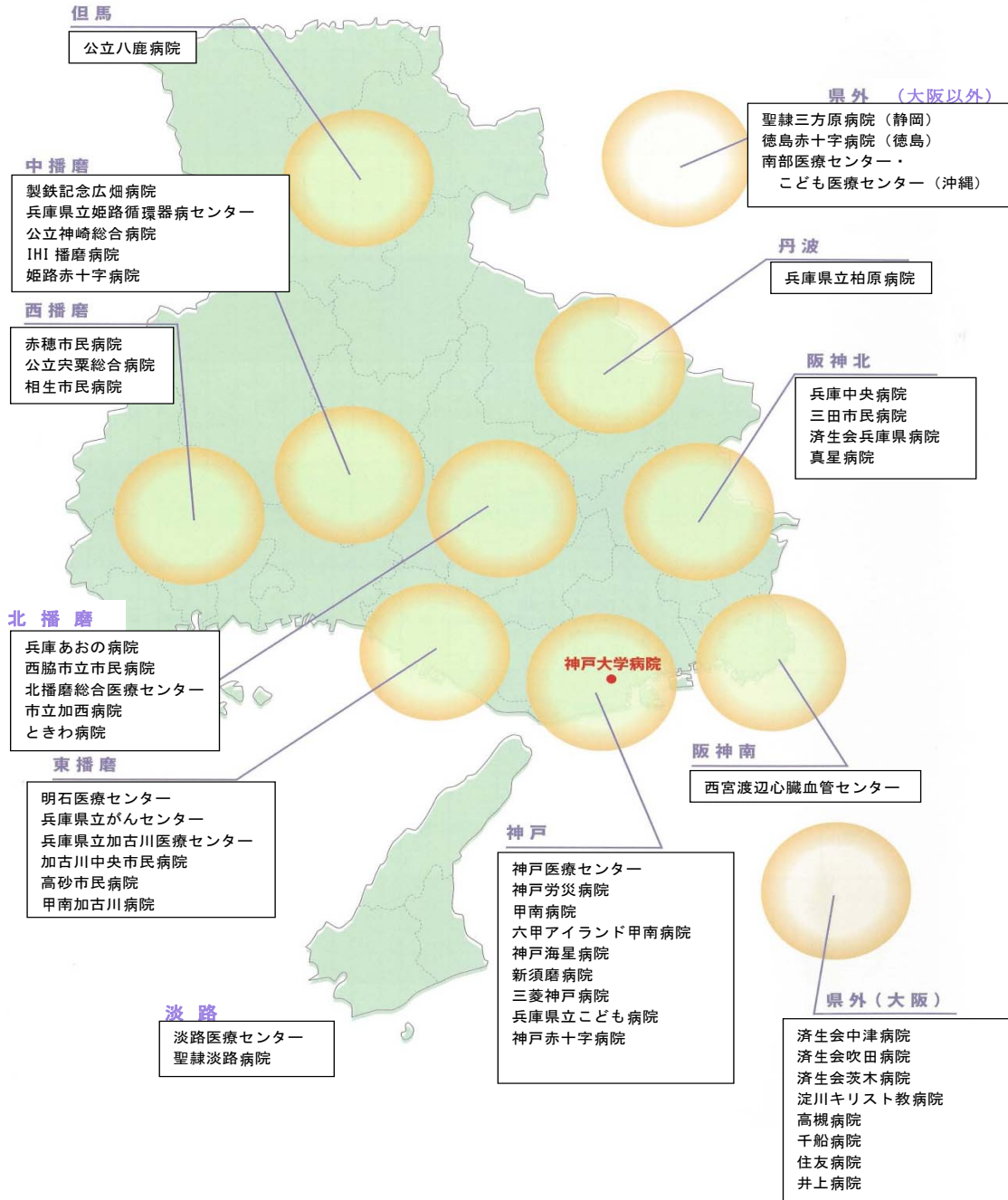
基礎研究



4.神戸大学外科専門研修プログラム施設群

- 神戸大学医学部附属病院を基幹施設とし、連携施設（49施設）と併せて専門研修施設群を構成しています。
- 200名の専門研修指導医が専攻医の指導にあっています。

神戸大学外科専門研修プログラム施設群



病院名	サブスペシャリティ学会専門医、指導医										サブスペシャリティ修練施設	神戸大プログラム配分NCD症例
	消化器外科		心臓血管外科		呼吸器外科		小児外科		乳腺外科			
	専門医	指導医	専門医	指導医	専門医	指導医	専門医	指導医	専門医	指導医		
神戸大学病院医学部附属病院	11	9	9	1	3	1	1	1	2	1	消、心、呼、小、乳	2092
明石医療センター			2	1	1						消、心、呼、乳	500
神戸医療センター	3	2							1		消、乳	475
兵庫中央病院	2				1	1					消、呼	151
県立がんセンター	8	3			3	2			4	2	消、呼、乳	1213
県立姫路循環器病センター	1	1	7	5							消、心	660
県立柏原病院	3	3									消、乳	301
県立加古川医療センター	4	3	1	1					2	2	消、乳	1476
県立淡路医療センター	2	2	2	2	1	1					消、心、呼、乳	1314
加古川中央市民病院	5	4	3	2	1		3	2			消、心、呼、小	1241
市立三田市民病院	3	1									消、乳	648
市立加西病院	2	2									消	401
市立西脇病院	4	1									消	178
高砂市民病院	2	2	1		3						消、呼、乳	494
北播磨総合医療センター	5	2	3	2	1						消、心、呼、乳	1096
宍粟総合病院	2	2									消、乳	260
公立神崎総合病院	2	1									消	122
神戸労災病院	4	3	2	2							消、心、乳	829
大阪府済生会中津病院	4	3	3	2	2						消、心、呼、乳	1318
済生会兵庫東病院	5	5			1						消、呼、乳	378
済生会吹田病院	4	1			1						消、呼、乳	379
済生会茨木病院	1	1									消、乳	468
三菱神戸病院	3	2									消	207
淀川キリスト教病院	3	3	1			1	1	1	1	1	消、呼、小、乳	968
聖隷三方原病院	2	2	2	1	6	1				1	消、心、呼、乳	480
聖隷淡路病院	2										消	38
甲南病院		1							2	1	消、乳	386
六甲アイランド甲南病院	4	2									消	289
神戸海星病院	4	4							2		消、乳	212
製鉄記念広畑病院	4	3							1		消、乳	972
IHI播磨病院		1									消	83
高槻病院	1	1	2	1	1		2	1	1	1	消、心、呼、小	530
千船病院	1										消	155
新須磨病院	2		2	1							消	161
八鹿病院											消	242
赤穂市民病院	3	3	1	1					1		消、心	104
住友病院	7	6	2	1	1				2		呼、消、心	258
兵庫県立こども病院			6	3			6	3			小、心	950
神戸赤十字病院	3	2	2	1	1	1					心、呼、消	306
徳島赤十字病院	3	2	4	1	1	1					心、消、呼	321
西宮渡辺心臓血管センター	1		1	1							心	128
南部医療センター・こども医療センター	1	1	4	1	1	2					心、消、呼、小	150
兵庫県立西宮病院	5	3									乳、消	205
姫路赤十字病院	7	5					1		2	1	小、消	331
災害医療センター												80
明和病院	7	5			2	1			1		消、乳	238
ときわ病院	5	3									消	66
真星病院	1										消	428
井上病院	1	1	1	1							消、心	211
国立循環器病研究センター			18	9							心	50
施設合計	147	101	79	40	31	12	14	8	23	7		24543

●施設群概要

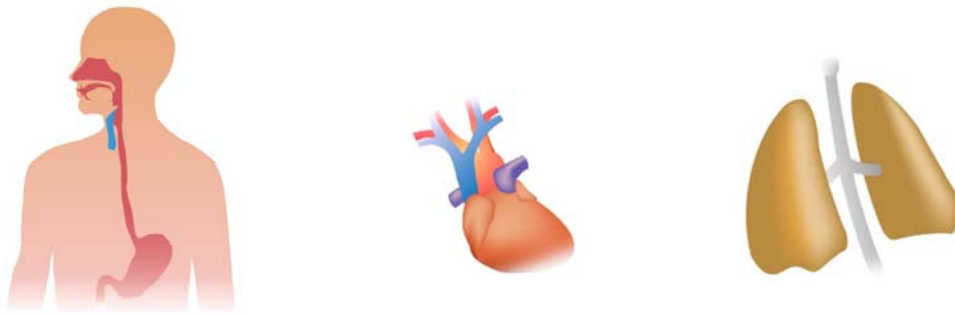
● 基幹施設	神戸大学医学部附属病院
● 専門研修指導医	約 200 名
● 連携施設	50 施設
● 年間 NCD 登録症例	約 24000 例
● 専攻医受け入れ数	約 40 名/年

●各サブスペシャリティ領域研修体制（2016 年 1 月調査）

	手術経験可能施設	サブスペシャリティ修練施設
消化器外科	44	43
心臓血管外科	33	19
呼吸器外科	22	17
小児外科	18	7
乳腺外科	36	23

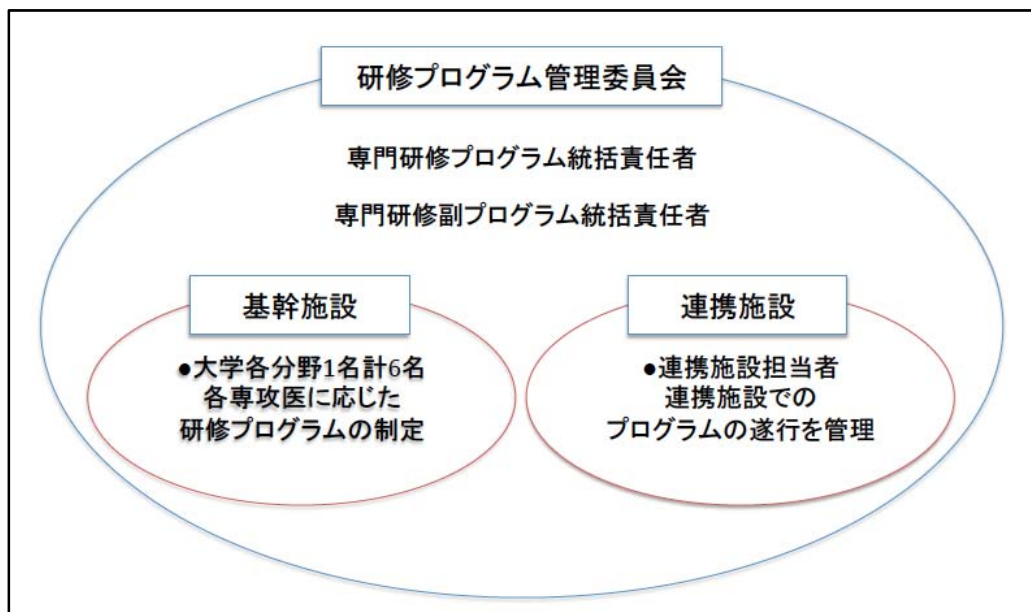
●専門研修指導医のサブスペシャリティ資格（2016 年 1 月調査）

	専門医	指導医
日本消化器外科学会	132	91
日本心臓血管外科学会	79	40
日本呼吸器外科学会	28	11
日本小児外科学会	13	8
日本乳癌学会	22	7



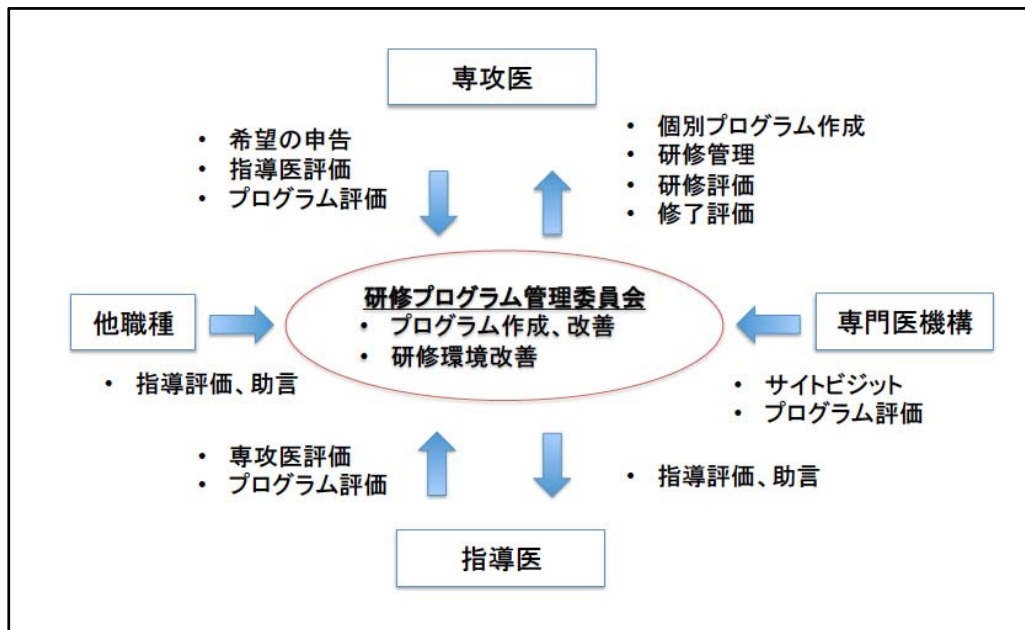
5.神戸大学外科専門研修プログラム管理委員会

専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者、副プログラム統括責任者を中心に、基幹施設である神戸大学医学部附属病院外科学講座の6分野からの担当者、および連携施設担当者により組織されています。



●役割

研修プログラム管理委員会は、専攻医、指導医、他職種等と連携し、専門研修プログラムの作成、管理、改善を行うとともに、研修全般の管理、研修修了判定を行います。



6.外科専門研修計画

研修プログラム管理委員会が専攻医個別にヒアリングを行い、各専攻医のライフプランに併せた研修プログラムを作成します。

一年ごとに定期的な再検討の機会を設けるとともに、研修中にも随時希望を研修プログラム管理委員会へ申告することができます。

- 研修期間は 初期臨床研修修了後、3 年間です。
- 3 年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低 6 ヶ月以上の研修を行います。
(基幹施設あるいは連携施設のみでの 3 年間の研修は行えません。)
- 専門研修 3 年間で、整備基準に記された専門医取得に必要な経験、業績を取得します。
- 初期臨床研修期間中に外科専門医基幹施設ないし連携施設で経験した手術症例(NCD に登録されていることが必須)は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限り、手術症例数に加算することができます。
- 専門研修期間中に神戸大学大学院へ進学することも可能です。臨床に従事しながら研究を進める期間は専門研修期間として扱います。この場合も 3 年間での外科専門医を取得出来ます。

● 専門研修中の年度毎の修練プロセス

専門研修 1 年目

- 外科診療に必要な解剖学、侵襲学、病理学等の基礎的知識、病態理解を習得する。
- 外科診療に必要な基本的検査、処置、手術、麻酔、周術期管理を習得する。
- 外科診療に関連する文献を検索し、批判的に考察する技能を習得する。
- 経験症例 150 例以上、術者経験 30 例以上

専門研修 2 年目

- 外科専門知識、専門技能を習得する。
- 低難度から中難度手術については術者としての基本的スキルを習得する。
- 経験した症例のプレゼンテーション、学会発表、論文執筆等の技能を習得する。
- 経験症例 350 例/2 年間以上、術者経験 120 例/2 年間以上

専門研修 3 年目

- 外科関連領域を含めた外科領域全般についての専門知識、専門技能を習得する。
サブスペシャリティ領域における高度専門知識の取得を開始する。
- 外科領域における未解決の問題点、議論点に自ら着目し、解決へ向ける基本的な探求姿勢を習得する。
- 倫理観に根ざした患者中心の安全な医療を実践し、研修医や学生のロールモデルとなる。
- 経験症例 500 例/3 年間以上、術者経験 200 例/3 年間以上

● 年次修練スケジュール

神戸大学外科専門研修プログラムでの 1 例を下に示す。この例では、専門研修 1・2 年次は連携施設、専門研修 3 年次は基幹施設での研修となります。

- 専門研修 2 年次終了までに、必須手術症例経験数、術者経験数、学術業績の蓄積を達成する。
- 専門研修 3 年間のうち、6 か月~2 年を基幹施設（神戸大学病院）にて研修する。
- 基幹施設研修時期は大学院進学希望、サブスペシャリティ専門修練計画等により柔軟に対応する。
- 研究コースでは 3 年目に大学院に進学し、臨床研究または学術研究・基礎研究を開始する。
ただし、研究専任となる基礎研究は 6 か月以内とする。
- 大学院進学や研究期間を設ける場合においても、外科専門医取得の遅滞が生じないように研修プログラムを構築する。

	専門研修 1 年次	専門研修 2 年次	専門研修 3 年次
研修施設	連携施設 (都市部センター病院)	連携施設 (地方中核病院)	基幹施設 (神戸大学病院)
手術経験	周術期管理、外科処置修得 低・中・高難度手術助手、術者経験 適切に段階を踏みつつ、年次に関わらず幅広く手術経験を積めるように 研修を計画する		
学術活動	国内・海外学会発表 論文作成 (邦文・英文)		
	標準コース		外科専門医取得
	サブスペシャリティ専門コース		サブスペシャリティ修練
	研究コース		大学院入学 研究・留学

● 専攻医の到達目標

➤ 到達目標 1 (専門知識) :

外科診療に必要な下記の基礎的知識・病態を習熟し、臨床応用ができる。

解剖学、病理学、腫瘍学、病態生理学、輸液・輸血学、血液凝固・線溶学、栄養・代謝学、感染症学、免疫学、麻酔科学、集中治療学、救急医療学

➤ 到達目標 2 (専門技能) :

外科診療に必要な下記の検査・処置・麻酔手技に習熟し、臨床応用ができる。

検査の施行と結果の評価、周術期管理、麻酔手技の実施、外科処置の施行、
科関連専門分野の初期治療と転送の判断など

➤ 到達目標 3 (学問的姿勢) :

外科学の進歩に併せた生涯学習の基本を修得し、実行できる。

カンファレンスや学術集会への出席と発表、外科学会への 1 回以上の出席は必須、
床で直面する問題解決のための資料収集、論文作成など

外

臨

➤ 到達目標 4（倫理性、社会性など）：

外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして適切な態度と習慣を身につける。

医療行為に関する法律の理解と遵守、患者や家族との信頼関係構築、インフォームドコンセントの実践、チーム医療の実践、ターミナルケアの実践、外科診療の指導、書類の作成・管理など

●専攻医の経験目標

- 経験目標 1：外科診療に必要な疾患を経験または理解する。
- 経験目標 2：（手術、処置）一定レベルの手術を適切に実施できる能力を修得し臨床応用できる。
 - ・350 例以上の手術手技を経験（NCD に登録されていることが必須）
 - ・術者として 120 例以上の経験（NCD に登録されていることが必須）
- 経験目標 3：地域医療への外科診療の役割を習熟し、実行できる。

●サブスペシャリティ専門医取得をサポート

- 外科研修修了後もサブスペシャリティ専門医取得に向けての業績作りをサポートします。

< 診療業績 >

サブスペシャリティ	業績
消化器外科専門医	術者として 450 例 低難度手術 50 例（術者） 中何度手術 50 例（術者） 高難度手術 50 例（助手可）
心臓血管外科専門医	1.術者として最少 50 例以上の手術を行うこと 2.第 1 助手としては、50 例以上を行うこと
呼吸器外科専門医	1.術者として 50 例以上の手術経験を有する 2.総ての呼吸器手術の助手症例が 100 例以上
小児外科専門医	1.小児外科手術 150 例以上の執刀経験 2.新生児 20 例以上の手術経験、 うち少なくとも 10 例は執刀経験
乳腺専門医	100 例以上の乳癌症例の診療経験

< 論文業績 >

サブスペシャリティ	業績
消化器外科専門医	研究発表を 6 件以上（論文 3 編を）
心臓血管外科専門医	論文 3 編以上（筆頭論文 1 編以上を含む） 学会発表筆頭で 3 回以上
呼吸器外科専門医	査読性のある全国誌以上で 3 編以上（うち筆頭論文 1 編以上）の論文・著書を執筆する
小児外科専門医	小児外科に関する筆頭者としての研究論文および症例報告を、それぞれ 1 編以上、およびその他の論文を 3 編以上
乳腺専門医	学会機関誌等に掲載された筆頭著者の学術論文 1 編以上

● 臨床現場を離れた学習、自己学習について

自ら臨床上の問題点を明確とし、それに対する解決策を最新の知見をもとに考えていくこと、また自身に求められる知識や技量を把握し、その習得へ向けて研鑽すること、これらのために臨床現場を離れた学習、自己学習は不可欠な機会と位置づけています。

最新の知識やスキル獲得のため、学会や研究会、セミナーへの積極的な参加を勧める。主要な学会、研究会等のスケジュールは研修管理委員会よりアナウンスします。神戸大学外科学講座では、ハンズオンセミナー（年 2 回ドライラボとウェットラボ）を主催、また各分野も積極的に研究会を主催しており、これらへ専攻医も参加します。各分野医局に常設のウェットラボやビデオライブラリー、書籍などは自由に閲覧、使用が可能です。基幹施設で随時開催の医療安全講習、感染対策講習、医療倫理講習の受講は必須とします。

これらを十分に活用し、自律的に成長できる能力を身につけた専門医となることを目指しましょう。

● 地域医療について

神戸大学専門研修プログラムの施設群は、僻地を含めた地方中核病院を多数有します。地域での研修では、専攻医は研修中であると同時に、地域医療を担う戦力として一線で能動的に活躍することが求められ、これは医師としての責任感や倫理観を涵養する重要な機会となります。また地方に特有の医療事情や疾患傾向を学び、地域の医療資源や救急体制を理解し、地域の特性に応じた病診連携や在宅医療を実践していきます。

本プログラムでの外科専門医育成に欠かせない研修と位置づけており、地域医療経験の機会を十分に生かすとともに、安全で有益な研修となるように、十分な指導体制を整備しています。

若手消化器外科腹腔鏡トレーニングコース



兵庫消化器外科腹腔鏡教育プログラム



7. 専門研修の評価と修了

- 専攻医と指導医による相互評価を基本とします。
- 専攻医は自身の経験症例を把握し、研修達成度の自己評価を行います。
- 指導医は日々の診療の中で専攻医を指導し、達成度を評価します。
- 医師としての態度、責任感、倫理観、社会性といったコアコンピテンシーの評価には、自己評価、指導医評価に加え、看護師長などの多職種による評価を含めます。
- 年度の末に専攻医評価表/実績記録(資料5)へ専攻医による自己評価、および指導者評価を記載し、3月に専門研修プログラム管理委員会に提出します。
- 研修プログラム管理委員会は5年間、これらの記録を保管します。

●研修の修了

3月末の研修管理委員会にて、研修開始後3年を経た専攻医について修了の可否を評価し、修了者へは専門研修プログラム統括責任者が外科専門研修修了証を交付します。

●修了要件

年次毎の評価表および実地経験目録、学術活動報告に基づき専攻医研修マニュアルに記載の必須症例経験、業績を取得していること。

神戸大学外科専門研修修了判定試験（研修3年目2月実施）に合格し、外科専門医としてふさわしい知識、技能、態度を習得していること。

●専門研修の休止・中断、プログラムの移動、未修了

専門研修の休止、中断、プログラムの移動を希望する専攻医は、研修プログラム管理委員会へ申し出て下さい。研修プログラム管理委員会は、専攻医研修マニュアルにある、“専門研修の休止・中断、プログラム移動、未修了”の項に準拠して対応します。

8. 専攻医の就業環境

専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は、専攻医の労働環境改善に努める。専門研修プログラム統括責任者および専門研修指導医は、専攻医のメンタルヘルスに配慮する。専攻医の勤務時間、当直勤務、給与、休暇は、労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規程に従います。

9. 専門研修プログラムの評価と改善

神戸大学外科専門研修プログラムは、専攻医からのフィードバックを重視して研修プログラムの評価と改善を行います。

- 専攻医は年次ごとに、指導医、指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行います。
- 指導医は指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行います。
- 専攻医および指導医、また他職種よりの評価は研修プログラム管理委員会へ提出され、研修プログラム管理委員会は研修プログラムの改善を行います。

- 必要に応じ、研修プログラム管理委員会は専門研修指導医よりの聞き取りおよび指導、指導施設の
 実地調査および指導を行います。
 - プログラムの修正、改善を行った場合、いかなる評価に基づいてどういった修正、改善を行ったか
 を記録し、日本専門医機構の外科専門研修委員会に報告します。
 - 研修プログラム管理委員会は、プログラムの評価、修正、改善を記録し保管します。
- 研修に対する監査（サイトビジット等）、調査への対応
- 外部機関によるサイトビジットは、積極的に受け入れます。監査、評価に基づいて、研修プログラ
 ム管理委員会はプログラムの修正、改善を行います。
 - いかなる評価にもとづいてどのような修正、改善を行ったかを記録し、日本専門医機構の外科専門
 研修委員会に報告します。

10. 専攻医の採用について

● 年度募集専攻医数

40 名

● 応募資格

- 医師法に定められた日本の医師免許を有する。
- 初期臨床研修修了登録証を有する。ただし、平成 16 年 3 月以前に卒業の医師は免除とする。

● 専攻医募集スケジュール

前年	7 月	説明会開催
	9 月	募集開始
	11 月	プログラム統括責任者宛への申請書類提出締め切り 書類選考、面接 選考結果を応募者へ通知
当年	2 月	研修病院決定

3月	専門研修オリエンテーション
4月	専門研修開始
5月31日までに日本外科学会事務局へ研修開始届けの提出	

● 提出書類

- ・ 申請書
- ・ 履歴書
- ・ 医師免許証コピー
- ・ 臨床研修修了登録証（コピー）あるいは修了見込証明書
- ・ 健康診断書

神戸大学外科専門研修プログラムへの応募者は、所定の形式の書類を専門研修プログラム統括責任者宛へ提出して下さい。

申請に関する詳細および申請書のダウンロードは神戸大学外科学講座ホームページへ。

(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/sdomon/index.html>)

各分野のホームページへのリンクより、教室紹介およびサブスペシャリティ専門医取得へ向けた詳細などを掲載しています。

本プログラムに関する問い合わせ先

食道胃腸外科 長谷川 寛 ・ 山本 将士

電話：078-382-5925

E-mail: ichige@med.kobe-u.ac.jp

